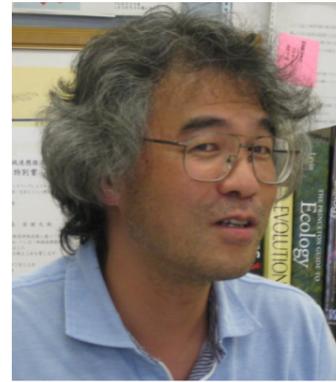
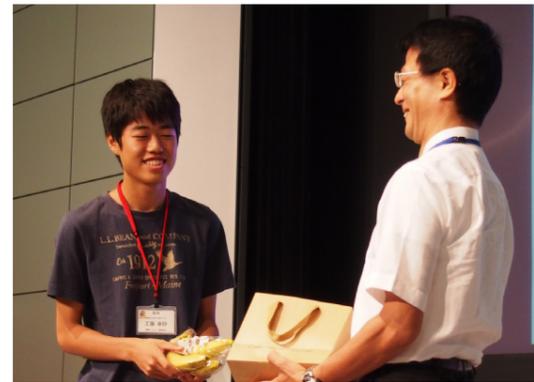


ディナーをよりいっそう盛り上げたのが、DNAトランプゲームだ。アミノ酸が発表された瞬間、皆がどよめき、一斉に配列



作り始めた。勝利を手にした選手たちは軽やかにセクエイを乗りこなし、「楽しかった」と感想を話してくれた。(執筆 高木亮輔)



3時間しか寝かせてくれない——最先端研究体験で選手たちに愚痴っていた先生こそ、我ら Team-J を監督してくれた千葉親文先生である。
 我々は親しみを込めて「おやぶん」と呼ぶ。朝刊配達のため、毎朝早くに車を出してくださった千葉先生。あるときはアドバイザーとして、またあるときはオブザーバーとして我々を支えてくれた。あまりの包容力に、編集部皆が陶醉したほどだ。
 千葉先生なくして「TSUKUBA TIMES」の発行には辿り着けなかった。「俺を使ってくれ」と勇ましく語り、我々に尽力してくれた千葉先生に、Team-J から謝辞を送りたい。(執筆 高木亮輔)